

古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第9回

■ 前回の課題の確認

まず始めに前回の課題の敷地条件、および施主の要望について確認しておきましょう。北入りの敷地条件で、南側のメインガーデンのデザインという課題でした。

おもな施主の要望は

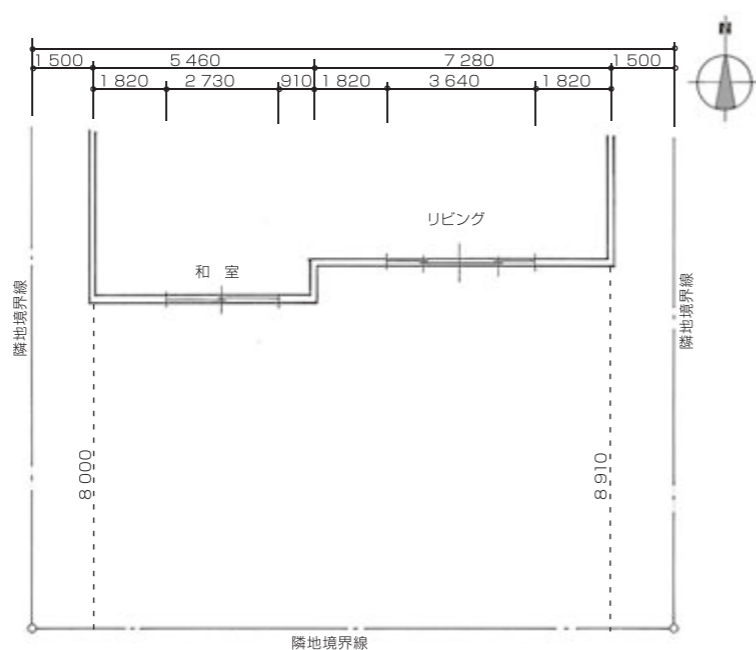
- ・リビング前に少し大きめのウッドデッキ
- ・ウッドデッキの東側に目隠し
- ・和室前には濡れ縁と沓脱ぎ石
- ・デッキとは別に自然石のテラス
- ・リビング前は「使う庭」
- ・和室前は「眺める庭」

などでした。

今回のポイントはウッドデッキと濡れ縁自然石のテラスをバランス良くレイアウトしてリズム感と奥行感をどの様に演出するかということです。

みなさんはどのようなプランでまとめられましたか？

今回もまずはゾーニング図を使って基本的な考え方や、動線計画を解説していくことにしましょう。

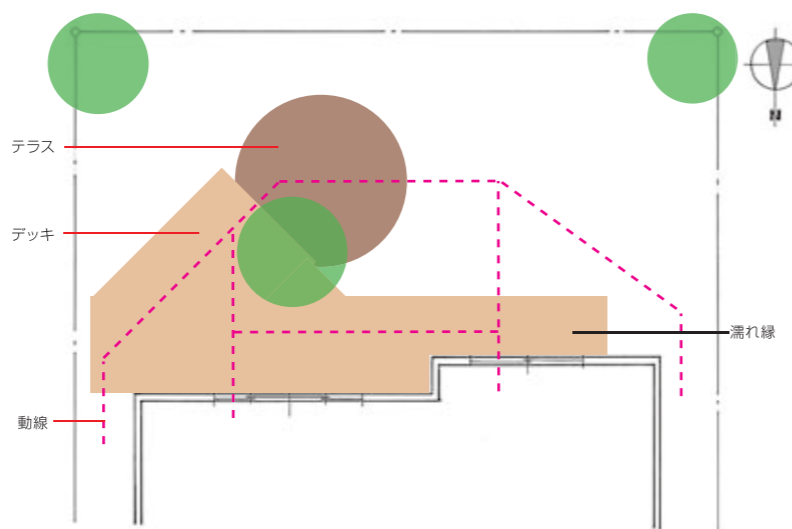


■ ゾーニング

ガーデンのプランを考える時は右の図のように建物を手前においてイメージするとよいでしょう。

四角いスペースに四角いウッドデッキを配置するよりも斜めに配置することで空間にリズムも出ますし、周囲の植栽スペースにも変化が生まれます。

デッキと濡れ縁、テラスを独立させて配置するのではなく、各要素を連結させたり重ね合わせることで、つながりもできて使いやすいプランとすることができます。

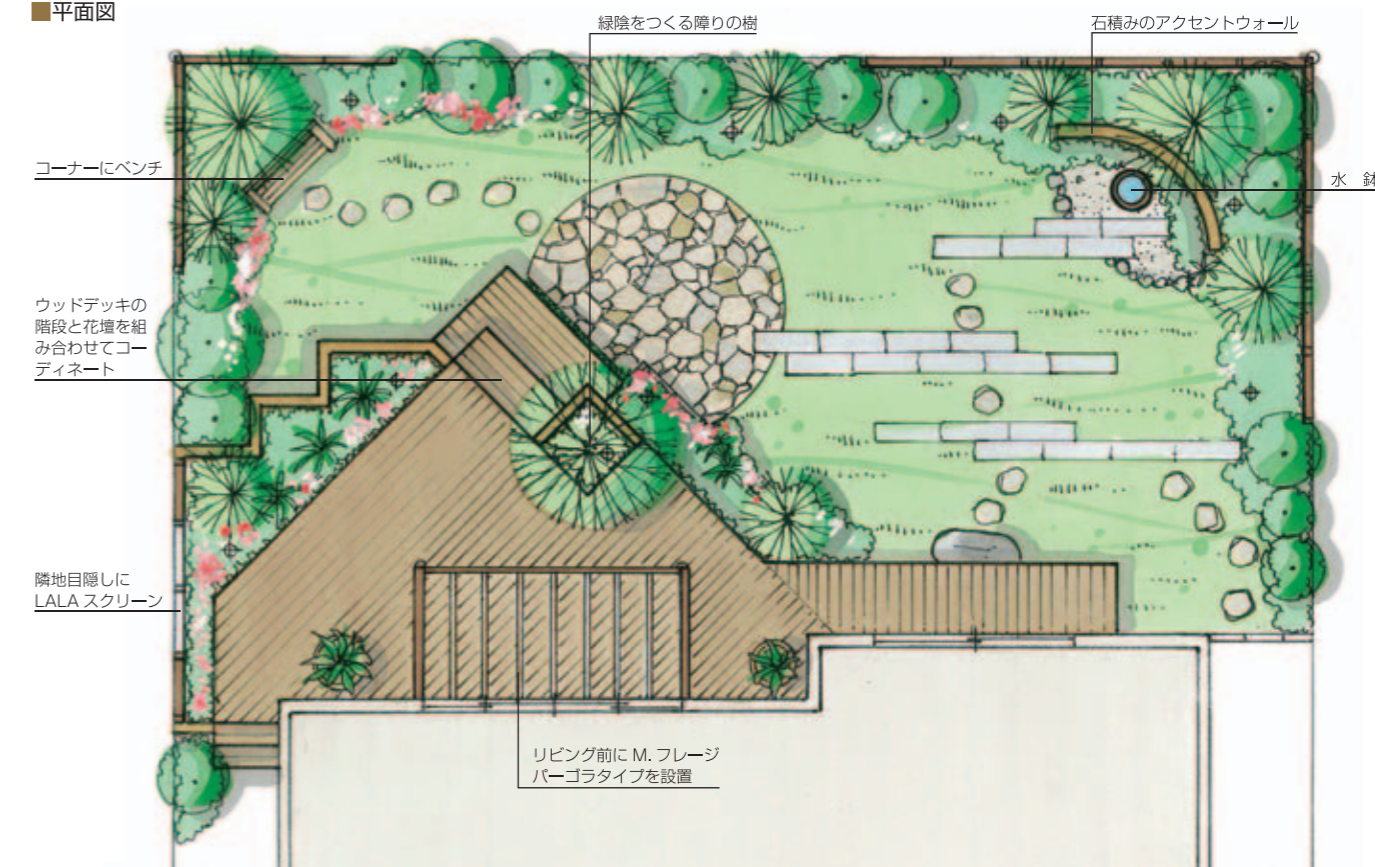


■ 模範プラン

それでは、ゾーニング図をもとに作成した模範プランをご覧ください。

ウッドデッキを建物に対して斜めに配置したり、隣地境界際まで活用することで見た目と使い勝手はるかに向上します。

■ 平面図



■ イメージパース



もちろん、このプランが正解というわけではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただき、ご自分で考えられたプランと比較して各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にしてください。

Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

生年月日: 1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア & ガーデンアカデミー東京校長・
一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、
1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や
英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>